

会 議 録	
会 議 名	令和6年度 第3回 丸亀市未来を築く地域戦略会議
開催日時	令和7年1月27日（月）13：30～15:10
開催場所	丸亀市役所4階特別会議室
出席者	出席委員 西成 典久、岩倉 洋平、中村 優、内海 珠美、荒川 和哲、池内 丈史、相原 しのぶ、佐久間 知恵、高木 明美、秦 佳子、梶谷 孝啓、井上 達也、直井 馨子 欠席委員 高畑 響子、高木 和代、西川 真智子、三谷 幸代、向井 将寅 事務局 市長公室長 栗山 佳子 （政策課）課長 真鍋 裕章、副課長 藤井 慶子、主査 大川 智
議事	1. 第3期丸亀市未来を築く総合戦略（案）について 2. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	ただ今より、令和6年度第3回丸亀市未来を築く地域戦略会議を開会します。議事に入る前に本日の資料を確認します。 <資料の確認>
真鍋課長	本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようにしてください。 それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき、会長に議長をお願いします。
西成会長	それでは、会議を進めさせていただきます。本日の会議ですが、委員総数 18 名中 13 名の出席であり、過半数を満たしていますので、丸亀市附属機関設置条例の規定により会議は有効に成立していることをご報告させていただきます。 本日の議事は、 （1）第3期丸亀市未来を築く総合戦略（案）について （2）その他 の2件です。まず、「（1）第3期丸亀市未来を築く総合戦略（案）について」事務局より説明をお願いします。
大川	<資料に基づき説明>

西成会長	第3期戦略では、具体的な施策が掲載されていませんが、次年度、総合計画に統合するにあたり、内容をどのように盛り込むのか教えてください。
真鍋課長	総合計画についても総合戦略と同様、施策の方向性を言葉で示し、その内容を基に、事業等を検討していくようになりますが、第3期戦略の内容を章立てするなど、人口減少対策に特化した部分を分かりやすいように示していくことを検討しています。 一方、具体的な施策や予算などについては、計画とは別に毎年示していく必要があると考えており、総合計画や総合戦略の別冊として取りまとめ、市民への啓発などに使っていきたいと考えています。
西成会長	進行管理は、どのように進めていきますか。
真鍋課長	市では、庁内の部長級以上による内部評価と、有識者等で構成された行政評価委員会による外部評価において行政評価を行っています。行政評価委員会でご意見をいただくことを想定しています。 また、本会議や総合計画などの審議会のあり方については、現在検討中ではありますが、いずれにしても、計画の進捗状況に対するご意見をいただき、次年度の予算編成や取組の進め方に反映させていきたいと考えています。
西成会長	進行管理の手法が決まりましたら、本会議でご説明いただきたいと思います。
梶谷委員	第2期戦略の検証の出生数の評価の出し方について教えてください。
真鍋課長	目標値 4,600 人対し、2023 年までの実績値が 3,237 人と、その達成率が 70%程度であるため、△と評価しています。その他、すべての指標において、現時点の最新値から達成率を積算し評価しました。
西成会長	評価するにあたっては、これまでの平均実績値を出して達成率を見ていく方が一般的だと思います。
真鍋課長	会長のご意見のとおり、平均実績値による評価でないと、最新値が突出していた場合などにおいて、ずれが生じることは理解しています。なお、出生数に関しては、実績値の累計ですので足し算となります。
西成会長	現状の評価がしやすいよう、累積ではなく年間の実績を目標値に設定すべきだと思います。
真鍋課長	第2期戦略の検証段階であるため、目標値の修正はできませんが、今後のその視点を持って目標値の設定などを検討させていただきたいと思います。

西成会長	2024 年の実績値を推測した評価の手法もあるのではないのでしょうか。
梶谷委員	第 2 期戦略の検証は、第 3 期戦略の前提となる重要な評価になります。評価によっては、取組姿勢が大きく変わることもありますので、会長のご意見のとおり、手法を変えて推定評価にすべきではないのでしょうか。
西成会長	80%以上を○とすると、それが基本であるように感じてしまいます。
大川	現時点で概ね 80%以上を達成している K P I は、目標値を達成する見込みであるとの意味を込めて○と評価しています。
梶谷委員	2023 年までの最新値では推定評価にしかありません。100%以上の指標を○とする表現が良いと思います。そもそも 2024 年の実績値が入っていない状態で評価することに無理があると思います。
真鍋課長	ご意見のとおり推定評価になりますが、現時点の最新値で評価しないことには、第 2 期戦略を第 3 期戦略につなげていくことができません。また、ご意見から評価欄がそもそも不必要だったとも思いますが、市民が目にした時に○△×で表現した方が分かりやすいと考えて掲載しています。
池内副会長	第 2 期戦略の検証で×と評価された取組は、第 3 期戦略でも強化して取り組んでいくイメージでしょうか。
真鍋課長	お見込のとおりで、×と評価された取組については、第 3 期戦略でも重点的に取り組んでいくこと、また、K P I の設定が適切であったかを見ていく必要があると思っています。
池内副会長	市内の犯罪発生件数における 2023 年の実績値が 730 件であるにも関わらず、目標値が 440 件から 350 件に上方修正されているのはなぜですか。
真鍋課長	2021 年に一度目標値を下回ったことにより、目標値を上方修正し 350 件としています。2023 年に飛躍的に犯罪発生件数が増えていることから、第 3 期戦略においても、引き続き取り組んでいかなければならないと考えています。
池内副会長	犯罪の手口が多様化していることから、その対策を講じることで、住み続けたい地域をつくるにつながってくると思います。
真鍋課長	第 3 期戦略では、警察等との連携を記載していますが、詐欺被害防止の啓発や防犯グッズの購入支援など、具体的な取組を検討していきたいと思っています。

高木明美委員	自身の子育て支援活動の経験から、結婚・出産・子育て・介護が安心してできるということは、丸亀市に住み続けたいにつながる一連のものであると思うのと同時に、晩婚化や出産年齢の高齢化が進むことで、子育てしながら親の介護が重なるダブルケアの加速化に対する支援が重要になってくると感じています。 また、令和7年度からのこども家庭センターの開設や重層支援体制の運用は、大きな施策になると思いますので、K P Iを設定した方が良いのではないのでしょうか。 最後に、第3期戦略のK P Iで、地域子ども・子育て支援事業実施箇所数の目標値が、現状の88箇所から127箇所と大幅に増えている理由を教えてください。
大川	地域子ども・子育て支援事業実施箇所数の目標値は、子育て支援課が設定した数値になりますが、こども家庭センターと並行して実施する利用者支援事業と、産後ケアなどの箇所数を地域のニーズに応じて増やしていくためと聞いています。
真鍋課長	第3期戦略の指標は、アウトカムに重点を置くという方針で設定をしており、ご提案いただいた、こども家庭センターと重層的支援体制のK P Iについては、主にアウトプット指標になろうかと思います。今後、アウトカム指標も出てくると思われますが、次年度の総合計画の中で検討させていただきたいと思います。
西成会長	総合計画のK P Iは、総合計画と総合戦略の両審議会で共有されますか。
真鍋課長	計画の統合に合わせ審議会も統合予定ですので、統合後の審議会において共有することになります。
相原委員	第3期戦略のK P Iで、1人あたりの旅行消費額の目標値が現状値に対し大幅に減少している理由がありますか。
真鍋課長	目標値の基になっている数値は、以前、産業観光課が策定した観光戦略プランの数値であり、策定当初は第3期戦略の目標値より少ない数値でしたが、実績値があがってきたことにより矛盾が生じているものです。目標値は現状値より高いものになるよう修正します。
相原委員	e モニターのアンケート調査結果概要を第3期戦略にどう落とし込んでいったかの補足説明があれば、より分かりやすくなると思います。 また、アンケートでは年代や性別に分けて集計することで、例えば、ワーク・ライフ・バランスの推進では、最も重要と効果的の回答割合が高いにも関わらず、効果がないも一定数の回答があるなど、結果が大きく変わってきます。そのため、もう少し集計を詳細にし、分析結果を戦略に反映させればより精度の高いものになるのではないのでしょうか。

真鍋課長	e モニターのアンケート調査結果概要を第3期戦略にどう落とし込んでいったかについては、アンケートのページに補足説明やまとめを追記します。 本市が計画を策定する際に実施する一般的なアンケートでは、エリアや年代などのバランスをとりながら調査を実施しますが、次年度に総合計画策定に関する大規模アンケートを実施する予定があることから、今回はe モニター登録者に絞った調査としました。e モニターの登録者は、市民参画に一定程度関心のある方になりますので、一般的なアンケートとは、結果に差が出てくるとは考えています。 また、調査の目的としては、第2期戦略の施策に対し、どのような感想や意見を持っているのかを聞くこととしていましたので、スポーツや離島振興など低い数値となっている施策に関しては、その取組の方向性を検討したいと考えています。
佐久間委員	人が輝くまちづくりの女性活躍の推進は、言われ始めてから大分時間が経っており、また、現在、ダイバーシティなどと呼び方も変わりつつあり違和感を覚えています。選んだ理由を教えてください。
真鍋課長	本市では、市独自に女性議会を実施するほか、2027年には日本女性会議の開催が決定しており、開催に向けた女性リーダー育成講座や人財バンクなどに力を入れて取り組んでいることから、女性活躍の推進と記載させていただきました。 しかしながら、ご意見のとおり、女性活躍はダイバーシティの1つの分野であることから、将来を見据え、少し大きな枠組みに記載を変更し、その中に女性活躍の推進入れる方が適切ではないかと思いました。
荒川委員	人口減少社会が到来するにあたり、生産性の向上がどの分野においても大命題だと感じており、「新しい時代の流れを力にする」におけるデジタルの力の活用と多様な協働の推進を横断的に進めていかなければなりません。具体的には、丸亀市、香川県、ひいては四国にある限りある地域資源を結び付け、発展につなげる好循環を生み出せるよう企業等との施策連携を模索していただきたいです。
真鍋課長	非常に重要な視点ですので、可能な限りの表現をすることと、産業分野において、具体的な施策に取り組むよう検討させていただきたいと思います。
梶谷委員	基本目標1の数値目標における目標値の年が、2026年になっていますので2025年への修正が必要ではないでしょうか。
真鍋課長	修正します。
梶谷委員	第3期戦略は単年度計画になるので、検証なしで総合計画に統合されると認識しています。そのため、進行管理は総合計画で行っていく趣旨を詳しく記載することで、より責任のある計画になると思います。

真鍋課長	追記します。
内海委員	説明の中で、K P I をアウトプットからアウトカムに絞って設定したことにより、第 2 期戦略に比べ第 3 期戦略では、K P I を厳選したとありましたが、そのことを計画に記載すると、市民にも分かりやすいと思います。
真鍋課長	追記します。
井上委員	令和 8 年に完成を予定している新市民会館について、どこかに記載があった方が良いでしょうと思います。
大川	文化芸術を生かしたまちづくりの中に、新市民会館の文言を追記します。
中村委員	基本目標 1 の K P I に農業産出額がありますが、丸亀市の基幹産業である製造業の産出額があっても良いと感じました。
大川	ご意見のとおり、本市の基幹産業は製造業だと認識しておりますが、支援制度などを見ますと、製造業に限らず多様な業種を網羅した支援制度となっていますので、K P I を設定しても市の施策により製造業の産出額が伸びたとすることは難しいと考えています。 一方で農業に関しては、それに特化した取組を展開していることから、今回初めて農業産出額を K P I に加えさせていただきました。
岩倉委員	ニューツーリズムの展開に記載されている城泊は新しいビジネスモデルで、これを継続していくイメージがあまり湧きませんが、戦略的に打ち出すにあたっては、市民への説明や市として強く打ち出していく強い意志表示がいると思います。 また、地域共生社会の実現の生きがいくりの推進では、主に高齢者や障がい者などの生きがいくりを推進していくとありますが、要因分析を内部的に十分していくことが重要であると思います。 第 2 期戦略の検証では、2024 年の数値が内部的に出ているから△の評価をしていると思っています。いずれにしても、要因分析が重要であることには変わりありません。 また、アンケート結果は非常に参考になる部分もあると思いますが、それをすべて鵜呑みにするのではなく客観的な視点を持って進めていただきたいと思います。
大川	城泊は、これから丸亀市が力を入れて取り組んでいく意思表示として計画に明記しました。本事業が目玉になるよう、次年度では、大阪・関西万博など様々な機会を捉えて P R する予定にしており、富裕層やインバウンド中心になると思いますが、城泊を中心とした観光振興に取り組んでいきます。 要因分析は、アクションプランの進捗状況を本会議でご審議いただいた際にも、原

	因と対策の重要性に関するご意見をいただいていることから、取組の効果検証を十分に行いながら取組を進めていきたいと考えています。 出生数等の指標の内部的な数字は概算で出ていますが、香川県人口動態調査の正式な発表がされていないので、今回は記載していません。 アンケートは、課長が申し上げたとおり、次年度に総合計画を策定するにあたり大規模アンケートを実施予定としていますが、客観的な視点を持ち、意見を反映できるところはさせていただきたいと思います。
秦委員	第2期戦略の検証のうち、私も関わっている元気いっぱい長生き体操参加者数は、減少傾向にあり、目標値の達成は難しいと感じています。 また、各種健診受診行動者数も減少しており、受診して欲しい人が行動に結びついていない現実があるにも関わらず、目標値が少し高いのではないかと考えています。 さらに、地域共生社会の実現の重層的支援体制を、後期高齢者やその独居、核家族の増加、人間関係が希薄になっている中においても、うまく運用していただき、孤立する人が一人でも少なくなるよう支援をお願いします。
大川	元気いっぱい長生き体操参加者数は、順調に推移していた時期もありましたが、コロナ禍を契機に、体操のリーダー育成などが上手くいかず伸び悩んでいる状況です。 次に、各種健診受診行動者数も、健診を受けない人をどう行動に移させるかが課題と聞いており、担当課では、AI診断を活用した受診勧奨ハガキを送付するなど取り組んでいます。こうした成果からも少しずつ伸びてきている状況でもありますので、引き続き粘り強く取り組んでいきたいと考えています。 最後に、重層的支援体制の運用は、定年延長などにより、従来であれば地域で活躍してくれるはずの年代が入らなくなるなど、地域の手が足りないという声をお聞きます。次年度から重層的支援体制の運用が始まることから、担当課も個人だけではなく、事業者を含めて地域に関わって欲しいとの思いで動いていますので、少しでも地域課題の解決につないでいきたいと考えています。
直井委員	Uターンの支援や子育ての取組などを会議に参加するまで知らなかったのも、私たち若い世代への情報発信、例えば成人式の時や学校に掲示などを積極的にした方が丸亀市に残ることにつながると思います。
大川	ご意見のとおり、若い世代の情報発信はとても重要だと考えています。そのため、先日行われた成人式では、記念冊子に若者向けの支援策を取りまとめたページを初めて掲載するほか、年末年始には、19～22歳までを対象とした若者向けアンケートを実施しました。今後は、そのアンケート結果などを参考にしながら必要とする人に確実に情報が届くよう、努めていきたいと思っています。

西成会長	丸亀市の 2023 年の合計特殊出生率が 1.41 と激減したとの説明を聞きましたが、他の自治体の状況はいかがでしょうか。
大川	2023 年の合計特殊出生率の数値は、先日発表されたばかりで他の自治体で公表しているところはありませんでした。しかしながら、香川県と全国の率は微減で、丸亀市ほど大幅な減少が見られなかったのも、その要因を推測し今後の取組に生かしていきたいと思っています。
西成会長	第 2 期戦略の検証に戻りますが、達成率が 100%を超える場合は◎にするなど、切り分けていただければと思います。いずれにしても、総合計画への統合により、数値は変わっていくと思いますので、評価欄は掲載してください。 他にご意見もないようですので、最後に議事の「(2) その他」について事務局より何かありますか。
大川	<今後のスケジュールについて説明>
西成会長	他にないようですので、本日の会議を終了します。 (会議終了)